

部活動実績 1年生大会 高校総合文化祭・ほか

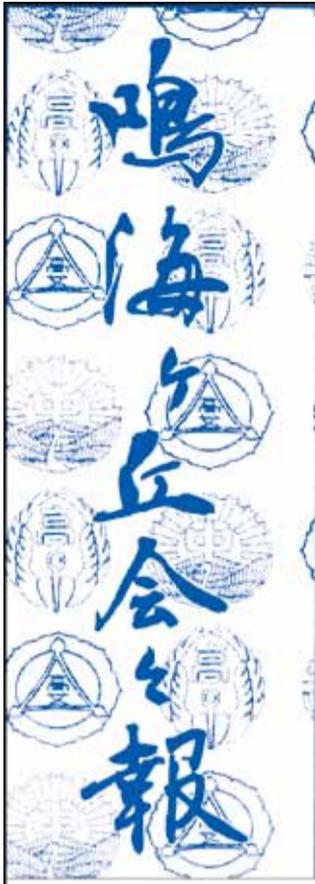
Table with sports results for various events including football, basketball, and cultural festivals. Columns include event name, category, and winners.

平成二十五年度 高鍋高校OB祭のお礼



実行委員長 石村 幸広

平成二十五年度高鍋高校OB祭は、八月九日、十日の二日間に行われ、今年度は、これまで先輩方が築いてこられた伝統や母校への想いを、次の世代と共有していききたいとの想いを込め「つなぐ、刻(とき)を越えて」をテーマに掲げ、一年間準備を重ねてまいりました。初日のゴルフコンペは、猛暑の中でのプレイとなりましたが、何事もなく無事終了することができ、最後の表彰式までお楽しみいただきました。二日目の記念企画は、「和太鼓」による迫力ある演奏で開幕し、蛸原友里さんのトークショーでは、日頃見ることができない蛸原さんの一面を垣間見ることができたのではないかと思います。記念トークショーに引き続き開催されたOB祭懇親会も大勢の方々に御参加いただき、大盛況のうちにはOB祭の全てを終えることができませんでした。OB祭の各イベントには、お盆前の大変お忙しい時期にもかかわらず多数の方々に御参加、御来場いただきました。主管学年としてこの上ない喜びであり、皆様方にごより感謝申し上げます。また、鳴海ヶ丘会会員の皆様、高鍋高校関係者、そして地域の皆様方には、有り余る御支援、御協力を賜り心よりお礼申し上げます。最後にありがとうございました。来年度の高鍋高校OB祭の成功と、高鍋高校並びに鳴海ヶ丘会の更なる発展を御祈念申し上げます。御礼のあいさついたします。



発行 宮崎県立高鍋高等学校 同窓会
宮崎県児湯郡高鍋町 大字北高鍋 4 2 6 2
TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096
URL http://www.narumigaoka.jp/

各支部からの報告

関西支部総会報告

関西支部事務局局長 久米 喜美子

関西支部の総会は、七月二十日に道頓堀ホテルで開催されました。前の石田事務局局長が急に病気でなくなりになり、その後を引き継ぎ初めの総会でしたので、果たして何人来てくださるか大変心配しましたが、八四名の方が出席して下さりほっと致しました。第一部では議事後、増田鳴海ヶ丘会長、藤本副校長、杉本県人会副会長にご挨拶いただき関西支部の飛田名誉会長に近畿県人会会長就任お祝の花束贈呈がありました。第二部では猪股事務局局長の母校の近況紹介やOB祭新旧実行委員のご挨拶がありました。懇親会では霧島酒造様提供の宮崎の焼酎を飲みながら高校の思い出、ラグビーの事、近況等に話がはずみ各テーブルで大変盛り上がりつつありました。又、日向ひよつこ同好会の方が踊りを添えて下さいました。その後の県産品等の当のお楽しみ抽選会では、宮崎カーフェリー様提供の十五万円相当の大阪一宮崎往復ペア乗船券が二十二年卒業の大先輩の方に当たり大変喜んでおられました。今年の総会は藤本先生の久しぶりの登場とあって花園の熱気そのままでした。今年のラグビーの応援も一段と熱が入る事でしょう。皆様のご協力で無事総会を終える事が出来まして感謝しております。来年は一〇〇名の参加を目ざしてみんなで知恵を出し合い伝統ある鳴海ヶ丘会の同窓会を守り、盛り立ててゆきたいと思っております。



東京支部第46回総会報告

在京同窓会 事務局局長 児玉 博

東京支部の総会は、7月13日(土)、大手町のサンケイプラザホールで開催されました。高鍋の方からは、増田会長、黒木本店黒木社長並びに藤本副校長、猪股先生、加えて、前年度及び今年度のOB祭実行委員の方たち(9名)のご出席を得て、参加者総数は158名となりました。この数は、昨年より29名も増加しております。世話役としては大変喜んでいるところです。増田会長、並びに藤本副校長のご挨拶では、学校の置かれている厳しい環境に、先生方もその打開、改善に大変ご苦労されている様子を見ることができました。この母校の難局に際し、私たちOBとしても、何が出来るかを考え、微力でもお手伝いをしたいものであります。その後のフォーラムでは、黒木本店の社長、黒木敏之さんから「焼酎ひと筋」という演題で、名酒「百年の孤独」の誕生秘話等について語って頂きました。軽妙な語り口と興味深い内容で、聴いている人皆が大変魅了されました。また、今年も、協賛の品として、高鍋黒木本店様(焼酎)、川南甲斐製茶様(お茶)及び都農役場(ワイン)と、加えて当会員の経営する企業から食事券、鉢花等と多数頂きました。それらは、抽選会の景品として使わせて頂きましたが、一部は、来場のみなさんに賞味して頂きました。それらのお陰で、会場は大いに盛り上がりました。あらためて、ご協賛頂いた企業と、暑いさなかにご臨席頂いた、ご来賓の方々に心からお礼を申し上げます。



平成二十五年度OB祭を終えて

事業推進局長 石崎 俊二

まずは今年度OB祭が無事に終了いたしましたことをご報告いたします。またOB祭を運営するにあたりまして多大なるご支援、ご協賛いただきました各社または個人の皆様、心より御礼申し上げます。さて事業推進局の大きな役割は広告協賛の取りまとめと今回メインイベントとなった蛸原友里さんの記念トークショーのチケット販売でした。どちらも運営資金の大部分を占めているため、大変なプレッシャーを感じていたことを思い出します。協賛依頼の活動を開始して前半は思うように集まらず日を迫らざるに焦りを感じていました。さすがに期限が迫ると担当実行委員の足も動きだし、また同窓生からの協賛協力もいただき、ぎりぎりではありましたがなんとか目標に近い数字を達成することができ、ほっといたしました。実際に広告協賛のお願いに回ったメンバーたちもそうですが、その気持ちに添えていただきました会社、団体、また個人の皆様に感謝の意をお伝えしたいと思います。



またチケットをご購入いただきました皆様、誠にありがとうございました。トークショーでは蛸原友里さんが登場したときの「オー！」といった溜息まじりの歓声は今でも忘れることができません。やはりモデルさんのスタイルは圧巻でした。最後に重ね重ね重なりはありますがOB祭にご協力いただいた全ての皆様、誠にありがとうございました。そして時間をつくって集まってくれた多くの仲間たち、本当にありがとうございます！

平成二十六年OB祭実行委員長あいさつ

平成二十六年OB祭実行委員長 古川 誠

平成26年度OB祭実行委員会を担当します。平成三年卒業生を代表してご挨拶申し上げます。まず、歴史ある高鍋高校OB祭に実行委員長として参加できることに大変喜びを感じると共に、先輩方が築いてきた歴史伝統を引き継いでいく大役に身の引き締まる思いを感じています。私達が、高鍋高校を卒業して22年の間、日本ではバブル崩壊から続く、経済の低迷や数々の自然災害、児湯地区においては口蹄疫など暗い話題ばかりでしたが、近年宮崎日本一、本県の高校サッカーや野球の活躍、またアベノミクスによる景気浮上、2020年のオリンピック・パラリンピック開催など明るい兆しも見えてきました。先日、初めて鳴海ヶ丘会総会、OB祭懇親会に出席しましたが、たくさんのOBのみなさんが高鍋高校のことを思い、熱く語



っている姿を目にし、改めて高鍋高校生であつたことに誇りを感じました。同級生というのはいつの時代も会えば、あの時に戻れ、また、これからの人生の心の支えにもなる存在だと思えます。今回、私が一番楽しみにしていることは、苦しみも喜びも共に過ごした同級生と集まり、同じ目標に向かって共に歩を進める、そんな貴重な経験が出来るといことです。これから約一年間、時には衝突や迷いもあると思います。でも、同じ時間を共有できる喜びを噛み締め、同級生一丸となりみなさんに喜んでもらえるOB祭にするべく、取り組んで参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。最後に、高鍋高校及び鳴海ヶ丘会の更なる発展と皆様の御健勝を祈念いたしまして私の挨拶いたします。

平成25年度OB祭

「つなぐ、刻を越えて」を振り返って



OB祭実行委員事業運営局長 河野 龍司

平成25年度高鍋高校OB祭を無事に終えることができたことに對し、皆様に心よりお礼申し上げます。

当日を迎えるまでには、紆余曲折ありました。テーマや講師決定などの外部調整、同級生の中でも連絡が取れない、返信がないなどの内部調整がうまくいかず、歯がゆい思いを抱え続けた準備期間でした。

1日目に開催されました同窓会ゴルフコンペにつきましては、天候は晴天に恵まれたものの先述のとおり、ラウンドではスコアメイクに苦しまれるかと思いましたが、諸先輩方の実力に舌を巻いた次第でありました。暑い中お疲れ様でした。

2日目の蛸原友里さんのトークショーでは、エビちゃんのアマリの綺麗さにヨダレい

や唾を飲む実行委員のメンバー。また、MR T川島アナウンサーの絶妙なトークスキルにトップモデルとしての心構えや生い立ちなどを聞くことができ、雲の上の存在に感じていたエビちゃんを身近に感じることができました。実行委員の中でも、駐車場のメンパーにおいては張り切りすぎたせいか、あまりにも早く交差点や駐車場付近に立ち始めたため熱中症寸前の状態でも文句も言わず業務に携わる姿が心に残っています。

OB祭は、同級生との再会だけでなく人間として自分を振り返ることが出来る貴重な48時間でした。かけがえのない同級生達と素晴らしい時間を共有できたことに感謝いたします。

鳴海ヶ丘祭を終えて

生徒会長



黒木 沙羅

先日、全校生徒で盛り上げた鳴海ヶ丘祭が幕を閉じました。台風接近のため、金・土・日の開催となり、それだけでなく、予定していたプログラムの多くが中止されました。実行委員はもろろん、生徒も動揺したかと思えます。それでも、「成功させたい!」と全校生徒の気持が一つになり、一人一人が精一杯取り組みました。

今度からこそ、最高の鳴海ヶ丘祭になったのではないのでしょうか。「つなぐ」のテーマのもと、この三日間を通じて多くの人と関わり、あらゆる場面でテーマである「つなぐ」が見られたと思います。鳴祭を通じてできたつながりは、これからの生活にも生かせると思います。ほんとに最高の鳴祭でした!!



42人分の力

203 田村 優実

金賞の発表を聞いたとき、私は耳を疑い声も出なかった。今年選んだ曲は、昨年303の先輩方が歌い金賞を獲得したと聞き、驚き、実行委員や生徒会の仕事で全員が集まることほとんどできない環境で音とりすらも出来ない日々が続いた。これでは、金賞どころか学年賞獲得も不可能だと思われた。しかし、本番当日。久々に合わせる41人のハーモニーは、練習以上の響きで、一番素晴らしい演奏であったと私は思っています。

今回合唱を成功させることができたのは、直前に入院してしまったクラスメイトや先生方の応援、ご指導のおかげでもある。たくさんの方の「つなぐ」を実感できる時間はとても貴重な体験となった。この気合いと根性で二連覇を達成し、42人で2学年をひっぱってほしいと思う。

ファッションショーを終えて

307 大木 結紀子

今回のファッションショーは昨年までとは違い、全307のみで行われ、後は就職や進学に向け、就職試験の準備と同時並行で行うため、不安な面もたくさんありました。思ったように事が運ばないこともありましたが、クラス全員が協力して307らしいステージを仕上げることで、ださった皆さんのおかげで、本当にありがとうございました。

今回のファッションショーが大成に終わったのも、生徒会や実行委員、諸先生が協力して307らしいステージを仕上げることで、本当にありがとうございました。

感謝感激

青団団長 302 黒木 亮次

夢のように楽しかった3日間。そして長くも短かった高校最後の夏。こんなにも忙しく緊張に迫られた日々は初めてでした。まさかやるとも思ってもみなかった団長。結団式まであと一週間と迫り、なかなか決まらなかった団長に、2組と4組を往来してやっと弱々しく返事をしたあの日がとても懐かしいです。人をまとめることの難しさや思い通りにいかないこともあり、苦惱の日々でした。演舞がうまくいかなかったり、応援の声が小さかったり、ダンスの体形などたくさん色んなことに試行錯誤し、一緒に協力してくれたリーダーと補佐には自分の勝手な判断や説明不足などに何も言わずに感謝してきてくれたことを本当に感謝しています。

そして、青が一つになった体育の部。まとまることの美しさ、感動を与えてくれた青団全員に感謝しています。青団の団長になれたこと、青団のみんなに出会えたことは僕の一生の財産です。本当に忙しくも楽しく、感動した夏がありました。ありがとうございました。

最高の思い出

赤団団長 305 谷口 太一

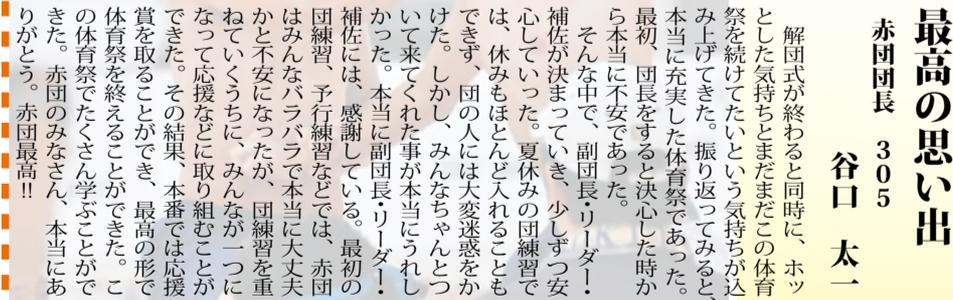
解団式が終わると同時に、ホッとした気持ちとまだまだこの体育祭を続けていたいという気持ちが込み上げてきた。振り返ってみると、本当に充実した体育祭であった。最初、団長をすくと決心した時から本当に不安であった。そんな中で、副団長・リーダー・補佐が決まっていき、少しずつ安心していった。夏休みの団練習では、休みもほとんど入れられることができず、団の人には大変迷惑をかかえた。しかし、みんなちゃんとついて来てくれた事が本当にうれしかった。本当に副団長・リーダー・補佐には、感謝している。最初の団練習、予行練習などでは、赤団はみんなバラバラで本当に大丈夫かと不安になったが、団練習を重ねていくうちに、みんなが一つになって応援などに取り組むことができた。その結果、本番では応援賞を取ることができ、最高の形で体育祭を終えることができた。この体育祭でたくさん学ぶことができた。赤団のみなさん、本当にありがとう。赤団最高!!

感動

黄団団長 306 中山 昌駿

ここまで感動できるとは思ってなかった。まとめきれない、盛り上がりたこと、何をいつも考えていた。自分でもこんな団長をやっているか本当に不安が大きかった。

そう思っていたが、副団長・リーダーが1・2年生を動かしてくれて本当に助かった。少しずつ団が一つになっていく気がして嬉しくなった。当日も朝早くきて装飾をしてくれて最高のものになった。あれほどの団にも負けてなかったと自信を持って言える。結果、応援優勝はとれなかったけど、総合優勝できた。最後の団対抗は最下位だったけど、テントから応援する声がかえってきた。ゴール後泣きそうになった。団長あいつでも解団式でも泣いてしまったが、本当に今思っても幸せな時間だった。支えてくれた副団長・リーダー補佐と団員に心から感謝しています。最高の思い出と感動をありがとう。



なんきんはぜ

7年ぶりの高鍋高校。4月から母校で勤務させていただくことになり、半年が経とうとしています。この半年近くの時間は、あっという間に過ぎてしまいました。高校時代の恩師の影響で教員になりたいと強く思い、人生の大きな転機となった母校で勤務できる喜びを感じながら日々生活しています。

私にとって、高校生活の3年間は楽しい思い出ばかりではありませんでした。朝課外にはじまり、夕方まで授業の日々。実家の木城から朝日に向かって登校し、夕日に向かって帰宅した日々。土曜日も課外。課題をやってなくて怒られたことなど。生徒の日常を見てみると、まるで今でも自分が生徒であるかのように、忘れていたはずの思い出がよみがえってきます。特に、今の304の教室(当時は303の教室)に行つた際には、当時の担任の先生、教科担任の先生方、クラスメイトの顔まで鮮明に思い出します。何気なく見る一瞬の風景はほとんど当時のままで、どこかほっとします。

つい先日ですが、偶然にも高鍋の町で同級生と会いました。同級生は子どもを連れていました。校内には同級生の弟や妹もいて、何気ない日常の中で時間が流れるのは早いと思えることもあります。今の高鍋高校も当時と大きく変わってしまったかともあります。少子化の影響もあってか、7年間に普通科が1クラス減っていて、少し寂しいと思えます。また、台風の影響で日程が変更になりながらも行われた先日の鳴海ヶ丘祭では、当時よりも主体的に動いて、楽しんでる生徒たちの姿があり、少し自分の知っている高鍋高校生と違う印象を受けることもあります。

それでも、廊下ですれ違った時に挨拶をしつかりする生徒の様子は今も変わらず。よき伝統は継承されつつ、新たな時代に向かって確実に発展し続けていると思います。今の生徒にも、将来の生徒にも挨拶、礼儀、清掃などのよき伝統を継承し続けていけたらと思います。苦しいこと、辛いこともあるかもしれませんが、「なぜ成る」の気持ちを持って、仲間とともに高鍋高校の3年間を充実したものにしたいです。そして、自分だけの高鍋高校の風景を見つけて欲しいです。やれることはそんなに多くはないですが、OBとしてよき伝統を継承しつつ、生徒そして高鍋高校のために少しでも貢献していきたいと思っています。(高橋 賢五)